

## ・懇談会等【共益事業】

---

### (1) 会員懇談会

会員懇談会は、全会員を対象に、大臣や閣僚・国内外の各界有識者等を来賓として招き、時宜にかなったテーマで講演会と懇談会を行っている。

例年は1月に新年会員懇談会として開催しているが、2020年はオリンピックイヤーであることを鑑み、橋本聖子 東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会担当大臣を招くこととし、調整の結果、2月に同友クラブと合同で新春会員懇談会として開催した。

「2020年オリンピック・パラリンピック東京大会の成功に向けて」と題した橋本大臣の講演では、東京都、大会組織委員会、国と地方自治体が協力し、アスリート・ファーストの視点で安心・安全を確保すべく万全な準備が進められていること、さらにセキュリティ対策や大会期間中の輸送対策等、政府のさまざまな取り組みについて伺った。

加えて、自身の7度のオリンピック出場経験から、スポーツを「する」「見る」「支える」という大きなつながりの中でスポーツ産業を育成することの必要性と、スポーツを楽しむ前提となる健康維持につながる予防医学・予防医療の重要性についても話を伺った。

本講演会および懇談会は、来賓の意向により会員限定の非公開会合として開催したが、その模様は「経済同友」3月号に掲載予定である。

### (2) 会員セミナー

会員セミナー（馬田一委員長、林礼子委員長）は全会員を対象として、会員の知識の向上・知恵の醸成に貢献し、会員の資質向上を図ることにより、本会活動の活性化に寄与することを目的として活動している。

本年度は、10月に運営委員会を開催し、本セミナーの企画・運営について協議した。その結果、企業経営、国内課題、先端技術、健康医療の分野を優先的に取り上げるテーマとし、「社外取締役の役割とコーポレートガバナンスの今後の課題」「日本財政を巡る課題 消費税率10%以後の改革に向けて」「AIの最先端とSociety 5.0の文脈におけるムーンショット」「超高齢社会を考える」等のテーマで各分野の専門家を招聘した。

これに加え、2017年度より実施している取り組みとして「これから世界はどうなるのか」をメインテーマとし、米国編・欧州編・新興国編とシリーズで開催するなど、

最新の世界情勢について情報提供を行った。

米国編では、久保文明 東京大学大学院 法学政治学研究科 教授より「トランプのアメリカと世界」、欧州編では、遠藤乾 北海道大学 公共政策大学院 院長より「ポスト複合危機の欧州 Brexit とその後」、新興国編では、柯 隆 東京財団政策研究所 主席研究員より「中国経済の正念場 米中貿易戦争の行方と日本企業のグローバル戦略のあり方」と題して講演の後、意見交換を行った。

3月に開催を予定していた第1335回ならびに第1336回会員セミナーは、新型コロナウイルス感染症対策のため中止した。

このため本年度は16回のセミナー開催となった。各回終了後には講演録(セミナー通報)を作成し、会員専用ウェブサイトで配信した。

また例年通り、本会の親睦団体である同友クラブメンバーにも本セミナーを案内し、相互連携・交流強化・情報提供に努めた。

本セミナーは、本会創立70周年を機に立ち上げた「みんなで描くみんなの未来プロジェクト」の一環として、世代や立場を越えた開かれた議論の場である「テラス」の1つとして位置づけられ、2016年度より各地経済同友会会員に継続的に案内している。本年度は栃木、群馬、埼玉、千葉、新潟、静岡、岡山の各地経済同友会から会員の参加を得た。

### (3) 産業懇談会

産業懇談会(稲野和利代表世話人、江幡真史代表世話人)は、会員の相互交流、情報交換を目的とし、14グループがそれぞれの世話人および運営委員を中心として、自主運営を行っている。

定例会は、グループ毎に昼食会形式で開催し、メンバーからの話題提供や、さまざまな分野で活躍される外部講師の招聘によって幅広いテーマによる講演と意見交換を実施した。こうした活動に加えて、現場を知ることが目的とした見学会や、複数のグループが合同で開催する懇談会など、多彩な活動を展開した。

9月には、毎年恒例の「14グループ合同懇談会」を開催、194名が出席し、グループの枠を越えて交流を深めた。

また、主に新入会員を対象として通年で実施している「お試し参加制度」は、本年度45件・27名の利用があり、このうち16名が正式に登録した。さらに、毎月開催する「新入会員オリエンテーション」において、産業懇談会への登録を積極的に呼び掛けるとともに、世話人やメンバーが、知り合いの新入会員に個別に声をかけるなどメンバー増強に取り組んだ結果、年度末の登録者総数は884名(昨年度末880名:4名増加)となった。

12月に開催した「14グループ世話人会」には世話人27名ならびに橋本専務理事が

出席し、自身のグループが抱える課題や特徴的な活動を紹介するなどの情報交換を行い、相互理解を深め合うとともに、産業懇談会のさらなる活性化に向けた議論を行った。これに基づいて代表世話人監修の下、未参加者も含めた会員向けアンケートや、世話人アンケートを実施、今後の参加促進策を計画した。

各グループの活動状況は、以下の通りである。なお、新型コロナウイルス感染症対策のため、第4木曜ならびに第4金曜グループの2月例会および第1火曜グループから第4金曜グループまで全ての3月例会は開催を中止した。

#### 〔第1火曜グループ〕

例会を8回、運営委員会を1回開催した。例会では、メンバーの所属企業・業界の現状や今後の課題について、また外部講師からは、世界の食糧事情や日本農業・農政の課題、新しい体制が始まるヨーロッパとトランプ大統領率いるアメリカとの関係、がんに対する正しい情報とがん患者やその家族への支援、揺らぐドルの覇権と日本経済などについて、幅広いテーマで話題提供・講演と意見交換を行った。5月には夕食懇談会を開催した。運営委員会は2月に開催し、2020年度の運営体制や活動方針について討議・決定した。

#### 〔第1水曜グループ〕

例会を8回（見学会1回を含む）、運営委員会を1回開催した。例会では、メンバーから、主に所属企業・業界のITを活用した先進的な取り組み事例や今後の展望・戦略などについて、外部講師からは、伝統の革新、安倍政権の現状と今後、宇宙開発とその利活用などについて、話題提供・講演と意見交換を行った。運営委員会は2月に開催、2020年度の活動方針と企画について討議・決定した。

#### 〔第1木曜グループ〕

例会を8回、運営委員会を2回開催した。例会は、メンバーからの話題提供を基本とし、メンバー自身の事業の紹介や業界の動向・課題などについて講演を行った。外部講師は、7月の1回のみで、アマゾンウェブサービスジャパンの企業カルチャーや事業の紹介をテーマとした講演と意見交換を行った。運営委員会は7月と12月に開催し、今後の運営方針や話題提供候補者と外部講師の推薦、2020年度の世話人・運営委員体制について討議・決定した。

#### 〔第2火曜グループ〕

例会を9回（見学会1回を含む）、運営委員会を1回開催した。例会では、メンバーの所属企業・業界の現状や今後の課題について、また外部講師からは、民間企業による月面探査プロジェクト、内外経済のリスク要因、2020年の金融経済展望など、幅

広いテーマで話題提供・講演と意見交換を行った。こうした活動のほか、11月は東京証券取引所見学会、1月はメンバー間の交流を目的とした新年懇談会を開催するなど、多彩な企画を実施し、親睦を深めた。運営委員会は1月に開催し、2020年度の運営体制と企画等について討議・決定した。

#### 〔第2水曜グループ〕

例会を10回（見学会1回含む）、運営委員会を1回開催した。例会では、メンバーから所属企業・業界の現状と展望について、外部講師からは、スポーツ産業の振興、芸術家による業界談と歌の披露など、幅広いテーマで話題提供・講演と意見交換を行った。見学会では、お台場デジタルアートミュージアムを訪問し、デジタルアートに体験を加えた新しい美術館を体感した。その他、第2金曜、第3水曜、第4火曜と新年合同懇談会を実施した。運営委員会は2月に開催し、2020年度の世話人・運営委員体制、企画等について討議・決定した。

#### 〔第2木曜グループ〕

例会を10回（見学会1回を含む）、運営委員会を1回、世話人打合せ（期中での世話人交代のため）を1回開催した。例会では、メンバーが、社内環境づくりや、海運をテーマとして話題を提供し、意見交換を行った。外部講師からは、世界経済、アジア新興国経済、日本経済の展望や、トップの危機管理、小笠原流礼法、難民支援等の多岐にわたるトピックについて、講演と意見交換を行った。また、見学会では、日本航空の工場を視察した。運営委員会は1月に開催し、2020年度の世話人・運営委員体制、企画等について討議・決定した。

#### 〔第2金曜グループ〕

例会を9回（見学会1回を含む）開催した。例会では、メンバー自身の事業の紹介や取り組み、世界経済フォーラムの動向などについて、外部講師からは、超高齢社会、地球と生命の起源と今後の予測などをテーマに話題提供・講演と意見交換を行った。見学会では東京スカイツリーを視察した。さらに、第2水曜、第3水曜、第4火曜グループとの合同で新年懇談会を実施し、グループ間の交流を深めた。運営委員会は3月に開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症対策のため延期した。2020年度の運営体制のみ書面で確認し、企画等については4月以降に討議・決定することとした。

#### 〔第3火曜グループ〕

例会を9回（見学会1回を含む）、運営委員会を1回開催した。例会では、メンバー自身の所属する企業・業界の動向などについて、外部講師からは、国際問題、ラグ

ビーワールドカップやA I、第5世代移動通信システム(5G)など幅広いテーマで話題提供・講演と意見交換を行った。また、11月に見学会として警視庁本部を訪問、1月にはメンバー間の交流を目的とした新年懇談会を開催した。運営委員会を2月に開催し、これまでの活動状況を踏まえた上で、今後の運営方針と外部講師の講演テーマ、2020年度の世話人・運営委員体制と企画等について討議・決定した。

#### 〔第3水曜グループ〕

例会を9回(見学会1回を含む)、運営委員会を2回開催した。例会では、メンバー自身の所属企業・業界の状況や動向などについて、外部講師からは、金融、音楽、宇宙開発、国際情勢など、幅広いテーマで話題提供・講演と意見交換を行った。見学会では、羽田空港管制塔を訪問し、東京の空の玄関口の現状についての知見を深めた。また、他グループと交流を深めるため、第2水曜、第2金曜、第4火曜グループとの新年合同懇談会を実施した。6月と12月に開催した運営委員会では、2020年度の運営体制、活動方針、グループ活性化の施策等について討議・決定した。

#### 〔第3木曜グループ〕

例会を10回(見学会1回を含む)、運営委員会を1回開催した。例会では、メンバー自身の所属企業・業界の現状や取り組みについて、外部講師からは米中関係、事業再構築に向けた経営戦略や信託の歴史等、多岐にわたる話題提供・講演があり、意見交換を行った。見学会では根津美術館を訪問し、日本を代表する建築家隈研吾建築都市設計事務所 主宰による建築や歴史について理解を深め、都会のオアシスとも言われる日本庭園を散策した。また交流促進のため懇談会も開催した。運営委員会は2月に開催し、2020年度の運営体制、企画等について討議・決定した。

#### 〔第4火曜グループ〕

例会を10回(見学会1回を含む)、運営委員会を1回開催した。例会では、主に新入会のメンバーから、ガバナンスやデジタル対応、イノベーションの創出などについて、また、外部講師からは、日本の伝統文化の強み、アート産業、プロアスリートの育成・マネジメントなど、足元で旬となっている興味深いテーマについて話題提供・講演があり、意見交換を行った。見学会では、9月に中日本高速道路管制センターを訪問した。わが国の高速道路の歴史を学んだ後、施設見学を行い、道路管制現場における危機対応システム等に触れる機会が得られた。運営委員会は1月に開催し、一年間の活動の総括とともに、2020年度の活動方針や活性化等について討議・決定した。

#### 〔第4水曜グループ〕

例会を9回(見学会1回を含む)、運営委員会を1回開催した。例会では、新入会メ

ンバーより、自身の事業の紹介や取り組みについて、外部講師より、コーポレートガバナンスと女性活躍、小惑星探査機「はやぶさ」式思考法、AIの進化と人間の役割、ラグビーに学ぶ目標達成など、幅広い分野にわたる話題提供・講演と意見交換を実施した。見学会では、「楽天クリムゾンハウス」を訪問した後、懇談会を開催し、メンバー相互の親睦を深めた。運営委員会は2月に開催し、新型コロナウイルスの今後の対応について討議・決定した。

#### 〔第4木曜グループ〕

例会を8回（見学会1回を含む）開催した。例会では、文化・産業・先端技術をテーマに著名な外部講師を招き、小道具業からみた歌舞伎の裏方、日本酒や林業の産業構造の課題と対策、ブロックチェーンによるビジネス変革などについて、講演と意見交換を行った。また、新入会メンバーからは、自身の所属業界の旬なテーマについての講演・意見交換を行った。見学会では、JR東日本新幹線総合指令所を訪問し、日本の高度な鉄道輸送を支える技術について知見を深めた。1月には新年懇談会を開催し、メンバー間の交流を深めた。

#### 〔第4金曜グループ〕

例会を7回（見学会1回を含む）、運営委員会を1回開催した。例会では、メンバー自身の所属企業での取り組みや専門分野に関する話題提供を、外部講師からは、中日関係、食育、医療、経済展望など、幅広いテーマで講演と意見交換を行った。見学会は、ヤマトホールディングス羽田クロノゲートを訪れ、宅急便や高付加価値機能を一体化した物流のしくみについて知見を深め、引き続き懇談会を開催した。また、メンバー間の交流を深めるため、恒例の忘年懇談会を実施した。運営委員会は1月に開催、2020年度の運営委員体制や活動方針等について討議・決定した。

### （4）経済懇談会

経済懇談会（岡田誠世話人、肥塚眞一郎世話人）は、1997年の発足以来、企業の第一線の経営者（副社長・専務・常務・執行役クラス）を構成メンバーとし、企業経営における実践的な課題について意見交換を行う自主運営の懇談会である。本年度は、3名の新メンバーを含む18名が、2019年10月から2020年2月までの5カ月間に、定例会合を9回開催した。

第1回の会合において、本年度の活動テーマを「持続的成長を実現する企業経営継承と変化」と決定した。本懇談会の活動では例年「変化」への対応が中心的なテーマとなってきたが、昨今の中長期的な視野に基づく経営が注目される中では、経営において「何を守っていくのか」も課題となることから、「継承と変化」という文脈

の中で、委員所属企業に関する持続的な成長に向けた取り組みについて話題を提供し、質疑応答と自由な意見交換によって議論を深めた。

このテーマの外部有識者として、馬場渉 パナソニックコーポレートイノベーション担当参与を招聘し、伝統的な大企業・製造業である同社が実践するコーポレートイノベーションについての講演と、委員との意見交換を行った。

3月に2回の会合（外部講師招聘会合と最終会合）と、視察（サントリー天然水 南アルプス白州工場・白州蒸溜所）を予定していたが、新型コロナウイルス感染症対策のため中止した。

#### （５）創発の会

創発の会（河本宏子座長、本山博史座長）は、原則として本会入会后2年以内の会員を対象とし、委員会活動への本格的参画のためのファースト・ステップとなる場を提供している。

1999年1月の発足以来、本会の理念、先達経営者の気概を幹部会員から新入会員へ伝承するとともに、忌憚のない意見交換を通じて幹部会員を触発し、本会活動全体の活性化につなげることを目的として活動している。原則として毎月1回夕刻より開催し、会合の形式は講演会と懇談会（カクテルパーティ）の二部構成である。

本年度は、7月に正副座長会議を開催し、本会の基本方針に基づき、創発の会が果たすべき役割について認識の共有を図った上で運営方針を決定した。

7月に開催した第1回会合は、橋本専務理事が「私と経済同友会」「2019年度（第34回）夏季セミナー報告」「これからの経済同友会」の3つのテーマについて講演し、活動への積極的な参画と支援・協力を呼びかけた。

第2回以降の会合では、秋田正紀 副代表幹事より「銀座のデパートマンと経済同友会」、野田由美子 幹事より「企業人として日本のために出来ること」、横尾敬介 終身幹事より「私と金融ビジネス、そして経済同友会」、岩本敏男 幹事より「テクノロジーがもたらす新たな社会と企業経営」、小柴満信 副代表幹事より「2019年は Tipping Point（転換点）？」と題してそれぞれ講演の後、講師を囲み、懇談会を行った。

2月には、櫻田代表幹事より「“いて欲しい国、いなくては困る国、日本”の実現に向けて」と題して講演の後、意見交換を行った。

なお、3月に予定していた、活動期間が満2年を経過したメンバー64名の修了式については、新型コロナウイルス感染症対策のため5月以降に開催を延期することとした。（2020年3月現在のメンバー総数は231名）。

#### （６）リーダーシップ・プログラム

リーダーシップ・プログラム（小林喜光委員長）は、幅広い視野を持ち、社会のリーダーとしても活躍し得る次世代の経営者育成を目的としており、会員所属企業の若手役員（主に取締役、執行役員クラス）で、本会未入会者を対象に実施している共益事業活動である。2003年度から開始し、本年度で第16期目を迎え、2018年度までに合計354名が本プログラムを卒業、このうち100名が本会へ入会している。

本年度は、24名のメンバーが、2019年7月～2020年2月の間に1回の合宿を含む12回の会合を行い、優れた経営を実践している経営者やさまざまな分野で活躍されている方の話を伺いながら、「不確実な時代におけるリーダーのあり方」などについて自由闊達な議論を重ねた。講師の講演に加えて、軽井沢合宿では「地技学の時代のリーダー像」のテーマで個人スピーチを行った。12月には、毎年恒例となっている第1期～第16期の参加者合同懇談会を開催した。幅広い業種から世代を超えて集まったメンバー同士の交流は、プログラム卒業後のネットワーク形成にも大いに役立っている。

なお、3月に予定していた宮崎での総括合宿については、新型コロナウイルス感染症対策のため8月に開催を延期することとした。8月の合宿では、講師による講演のほか、メンバーの個人スピーチや、模擬取締役会形式のグループ討議を行う予定である。

#### （7）ジュニア・リーダーシップ・プログラム

ジュニア・リーダーシップ・プログラム（立石文雄委員長）は、企業意思決定ボードのダイバーシティ実現に向けて、次期上級幹部の育成を目的としており、会員所属企業の部長クラスを対象に2012年度から実施している共益事業活動である。

第8期目となる本年度は、24名（女性17名、男性7名）が参加し、2019年7月から2020年2月までに12回の会合を開催した。講師には、ダイバーシティ促進やグローバル人材の育成・活用を積極的に実践している企業経営者を中心に招き、自身の経営哲学や組織マネジメントについて、実践的な話を伺った。講演後の質疑応答では、参加者が直面している実際の課題について、講師から具体的なアドバイスを受けた。

また、本年度も2018年度に引き続き、障がい者と健常者が共に働く「オムロン京都太陽」の工場を視察し、多様な特性のある人たちと働くダイバーシティについて、一層の理解を深めた。

さらに、各会合での学びを定着させるとともに、メンバー間の議論を深め、自らのリーダーシップを醸成することを目的に、少人数でのグループ研究を実施した。最終会合では、各グループの研究発表と参加者の個人スピーチを実施し、各々の参加者が、今後、実際の職場でどのようにリーダーシップを発揮していくかについて発表



した。

12月には、第1期～第8期の参加者合同忘年懇談会を開催し、年度を越えた親睦を深め、ネットワークの強化を図った。